

被災地派遣レポート＜第113回＞

建設局西多摩建設事務所工事第二課 岩本 祐生さん

1. はじめに

私は平成25年度の1年間、岩手県沿岸広域振興局に赴任しました。赴任のきっかけは自己申告の面談の際に課長から被災地派遣のお話をいただいたことです。内心、新規採用で島しょに赴任後、本土での職務経験のない私で大役が務まるのか不安でしたが、被災地の復旧復興に協力し、私自身技術者として成長したいと強く思い赴任を決意しました。

2. 被災地の状況と担当業務

沿岸広域振興局は岩手県釜石市に所在し、釜石市と大槌町を所管しています。震災による被害は甚大であり、市街地から撤去されたガレキが市内、町内に点在する公園、グラウンド等の広い敷地に山積みの状態で仮置きされ、市町村の災害廃棄物分別処理事業による処理が急がれていました。

私の担当業務は釜石市^{りょういし}両石湾に面する水海海岸と、同唐丹湾^{みずうみ}に面する小白浜海岸^{とうに}における海岸保全施設の災害復旧工事の設計、工事監督や、国交省防災課との設計変更協議などでした。業務上、特に大変だったことは、設計や工事を進めるうえで参考となる先例がなく、手探りの状態で進捗を図らなければならなかったことです。例えば、生コン等資材不足に伴う防潮堤構造の変更に係る調整や、消費税増税の影響等を考慮したインフレスライド額の算定とその契約変更などです。大震災から3年が経過し今後さらに災害復旧事業が本格化していきますが、新たに課題や問題が生じる状況は依然として変わらないと思います。

3. 職場環境

私の所属した土木部は、東京都から5名、静岡県から6名、福井県、新潟県から1名の計13名が派遣され、そのほかにも臨時職員の方々が加わり、90人近い職員で構成されていました。有り難かったことは、職場環境の明るさでした。プロパー職員の方々が我々派遣職員に対して気兼ねなく接してくださったので、公私問わず相談事、疑問に思うことを持ちかけることができました。みな大変仲が良く、歓迎会、忘年会、年祝い、送別会などの部で開催される宴会では、毎回欠席者は数名で、出席率の高さには驚きました。本部所が抱える災害復旧事業が、課題・問題が山積みのなか順調に進捗している要因は、組織の団結力によるところが大きいと感じました。

4. おわりに

東北地方太平洋沖地震が発生した平成23年3月11日、地震後まもなく津波が沿岸部を襲うテレビの映像は今でもまざまざとまぶたに浮かんできます。我々は自然の脅威とどのように向き合っていくべきか、被災地派遣は派遣職員に対して国土の保全、防災を考えるうえでの糧を残します。被災地の一日も早い復興のため、また、被災地における経験が都での防災施策に資するところの大きさから、今後とも、東京都には被災地支援を長く続けていって欲しいです。